

異文化トレーニング（多文化マネジメント）

\*\*\*\*\*アンケート集計\*\*\*\*\*

平成7年1月21日

1. 全体の研修システムはいかがでしたか？

(1) 研修期間（時間）について

- a. 丁度よい（7）    b. 長すぎる（2）    c. 短すぎる（3）

ご意見・3日間として（1日の時間は長い）

- テーマに較べて時間が短すぎる。3日間で作るならばテーマを絞った方がよい。
- 知識研修が主である。テーマが大きすぎる。
- 2日間程度の研修がBEST。また、夜9時は長すぎる。
- 夜の9時どうも。反対です。
- コンパクトにまとめた方がよい。
- 初日の9時は長すぎる。せめて7時まで。その後夕食がよい。
- 時間設定はよいが、3日を4日にし、夜の研修を昼間に実施したほうがよい。

(2) 教材について

- a. 良い（5）    b. 普通（6）    c. 悪い（1）

ご意見・ケーススタディが少ない。事例、体験例が少ない。

- 具体例の中で、抽象的なものがあった。

研修の内容はいかがでしたか？

(3) プログラムの構成について

a. 適切 (5) b. 不適切 (6)

ご意見・学科と実技のバランスが不適切

- 事前の打合せは十分に事務局として行ったと思うが、N先生が初めの方が良いのではないか。
- プログラムの流れ（順序）を検討する必要あり、項目の時間配分についても検討する必要あり。
- 3日目が初日が良い。グループ討議が少ない。
- 雑貨屋方式すぎる。もっとそれぞれのプログラムの狙い、意味を把握すれば構成、展開、時間配分は異なると思う。
- 前半2日間での、まとめが少ない。全体的な再確認がほしい。
- 2日目の分を1日目にした方が良い。
- 中途半端。
- 最終日を第1日目に設定した方が良い。

(4) 時間配分について

a. 適切 (6) b. 不適切 (5)

ご意見・適切である。但し、休み時間をきちんと取ったほうが良い。

- 9時までの研修は不適切。
- 夜9時までには必要なし。集中力がもたない。
- 休憩が等分でない。初日はもっと長くてよい。夜の時間を有効に。
- 会場、講師の手配にもよるが、夜9時近くまではやや無理があるのでは。
- 1日における時間数の平均化。

(5) 将来、日本あるいは外国で外国人と仕事をする場合に、今回の研修を受けて当てはまることにチェック(○)して下さい。複数でも構いません。

- ◇問題の所在を発見する際に役立つ。 .....(5)
- ◇問題を文化の面からみることができる。 .....(9)
- ◇問題の処理の仕方を学んだ。 .....(4)
- ◇労務管理をする際、有効である。 .....(2)
- ◇技術指導をする際、有効である。 .....(2)
- ◇自分の寛容性が高まった。 .....(5)
- ◇外国人と人間関係をつくる際、有効である。  
.....(10)
- ◇日本人・日本文化を見直すことができた。  
.....(8)
- ◇多文化の環境の中でどのように対応するか汎用的な  
多文化対応を学べた。 .....(8)

2. 研修題目ごとの内容はいかがでしたか？ ①～②につきましてはA 良 } で  
 回答してください。 B 普通 }  
 C 不適 }

	研修題目	① 研修の 進め方	② 指 導 方 法	コ メ ン ト
19 日	多文化問題事例 研究 例 I ～ IV	A(9)  B(2)  C(1)	A(6)  B(5)  C(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 受講者が今、何をすればよいかという指示が簡略されていて戸惑った。</li> <li>• 大変わかりやすい。問題点、対処方法の説明もわかりやすい</li> <li>• 現地の人の参加による意見交換は理解し易い。</li> <li>• 事例を3つに絞り、1つの事例研究にあたっては、インフォーマーからコメントを多く引き出すようにした方が良い。</li> <li>• グループ研究があまりない。ミーティング時間が短い。</li> <li>• 良いが、背景説明はケーススタディ分析の資料だということを協調しておいたほうがよい。</li> <li>• 目的がはっきりしない。</li> <li>• ケーススタディを1つ少なくすること</li> <li>• 時間制限のあった中で、大変てきぱきと要素をかいつまんで説明していただいた。</li> </ul>

	研修題目	① 研修の 進め方	② 指 導 方 法	コ  メ ン  ト
19  日	多文化コミュニ ケーション	A(10)  B(1)  C(1)	A(7)  B(4)  C(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事例は2通り（違ったケース）ぐらい でよいが、もっとそのケースを深く 突っ込んで協議、検討したほうが良い のではないか。時間の関係でご専門の 先生方の詳しい話が十分きけなかった。</li> <li>• 特になし。</li> <li>• 英語を使ったことが問題。時間が足り なかったと思われる。</li> <li>• 東南アジア（タイ）についてはタイ人 の直接の声なので実感が湧いた。</li> <li>• もっと資料があったほうがよい。</li> <li>• ビデオによる違い説明は方法論として は分かりやすい。</li> <li>• 極端な言い回しが目についた。</li> <li>• 練習なしに、ロールプレイをやらせて もあまり意味がないのでは。紹介程度 で終わってしまう。</li> </ul>

	研修題目	① 研修の 進め方	② 指 導 方 法	コ メ ン ト
20  日	多文化コミュニ ケーション	A(10)  B(1)  C(1)	A(10)  B(1)  C(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大変よかった。</li> <li>• アメリカ人から見た日本文化を面白い事例を引き合いにだし、興味深かった</li> <li>• 極端な言い回しが目についた。</li> <li>• 講師の話術にメリハリを感じた。</li> <li>• 事例が少ない。いろんな角度より行ってほしかった。</li> <li>• 非常にインプレッシブであった。</li> <li>• 特によい。</li> <li>• 外国人（特にアメリカ人）の先生が、日本語で異文化の話をされるのには大変興味をもった。また、話の進め方等のテンポが良く、楽しく学べた。 (少々、日本語のおかしい所があったがそれは問題なし。)</li> </ul>

	研修題目	① 研修の 進め方	② 指 導 方 法	コ メ ン ト
20  日	マネジメントの 観点から	A(2)  B(8)  C(2)	A(4)  B(5)  C(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 進め方のテンポが余り良くない。</li> <li>• 時間がとれなかったのは残念。</li> <li>• 全体のコントラストでは別の分野19日の「多文化」と併せて別の研修にしたほうが良い。</li> <li>• レジメが明確になっていない。</li> <li>• 内容がむずかしい。学説を紹介しているだけでなく、実体験から内容を裏付けして欲しかった。</li> <li>• 聞いている時間が長い気がして、あまり緊張感がない。</li> <li>• 人によっては難しい。日本でのベースができていないと難しい。</li> <li>• 講義の進行にもうちょっと、テンポ、メリハリが欲しかった。</li> <li>• 上すべりの傾向</li> <li>• 時間の関係で説明不足であった。</li> </ul>

	研修題目	① 研修の 進め方	② 指 導 方 法	コ メ ン ト
21 日	異文化シミュレーション 「バファ・バファ」	A(10)  B(1)  C( )	A(11)  B( )  C( )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ルールの理解が徹底していなかった点はあるが、異文化に遭遇時、極端な場合で経験し、対応を考える面白いシミュレーションだったと思う。</li> <li>• 理解し易く、大変良い。</li> <li>• 遊び感覚（ゲーム）を含めて、リラックスした状態で受講できた。</li> <li>• 全体的にカバーしているが、LEADERがもっとAGGRESSIVEに引っ張ってもよかった。</li> <li>• シュミレーションは大変勉強になった特に初めての者にとって異文化についての必要性を感じ取ることができたと思う。日本語で話せる外国人による講義は文化が対比できて良い。(わかりやすい)</li> <li>• 全体の構成として、研修初日に取り入れるとグループ内がなごみ、後の研修でも、ディスカッションがはずむのでよい。</li> <li>• 大変楽しかったです。</li> </ul>

	研修題目	① 研修の 進め方	② 指 導 方 法	コ メ ン ト
21	言語行動のパ ターン	A(8)	A(8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•時間が不足。</li> <li>•進め方が概念だけで奥が薄い。また、英語で進めているので、分かりづらかった。</li> <li>•コスタリカ人の先生がカルチャーシュミレーションにつき説明してくれることは大変わかりやすい。また、3ヶ国の比較は大変興味深かった。もう少し、シュミレーション（またはロールプレー）を増やしたほうが良い。</li> <li>•外国人の実際の話なので、理解しやすい。</li> <li>•文化のアイデンティティ〈ー〉価値観の不遍性</li> <li>•理解しやすく、大変良い。</li> <li>•もう少し、多くの例にふれて考えて見たかった。</li> </ul>
日	非言語行動のパ ターン	B(5)	B(5)	
	効果的な国際行 動	C( )	C( )	

3.

(1) 研修を受ける前、この研修に何を期待しましたか述べて下さい。

- どんなセミナーになるのか、興味があった。
- もう少し高度なもの、非常に初歩的。
- 実際に異文化とはどういうものか、実践してみたかった。
- 不安で何をするのかわからず、必ずしも来たいとは思わなかった。
- 国際的ビジネス感覚の育成。
- バファバファが一体どんなものか、非常に興味があった。
- 双方向のコミュニケーションのやり方を学ぶこと。
- 特になし。
- 東南アジア（特にタイ）の文化、習慣等について得るものを期待していた。
- タイ赴任にあたっての事前予備知識、心構え、習得。
- 参加するだけで良いと思っていました。
- 研修を受けることで、工場の生産性向上が図ればよい。  
(コミュニケーションの障害をすこしでも乗り越える)

(2) (1)を踏まえて、研修を受けた後の感想を述べて下さい。

- 研修では基本的な知識（考え方）、手法を学んだが、これをいかに自分の業務へ結びつけるかが、今後の課題。（アクションプランづくり）
- 大変勉強になりました。
- 多文化コミュニケーションについて、学ぶべき事についての目次的なレベルを習得できた。
- 特定の場所についての得るものはなかったが、文化及びマネジメントの考え方について勉強になった。知識より技能ということだが、技能はあまり身に付かなかった。
- 研修生のレベル（例えば海外の経験者のみとか）を統一するとよい。
- 自分の意見、意味することを相手に的確に伝えることができそうである。
- おもしろい経験だった。自分が異文化に対して、どう考える、どう反応す

見ることができた。

- 一部参考にならなかった。
- 今後の活動に有効だと思います。

• 自分は海外との接触がないので新しいことは何もしない。クラスによってコースの内容を変える必要あり。

• 異文化に関し、その大切さが理解できたと思う。

- よかった。次回からの有料セミナーに役立てなくては。

2019年10月10日

最後に、この研修に対する全体的な感想、ご意見等がありましたらご自由にお書き下さい。

- 異文化講義に係わるプログラムの構成の見直しは必要か？もっとアトラクティブに出来ないか
- T氏とM氏の組み合わせ、N氏とM氏の組合せでよい。A、I氏は別のテーマで組むべき。
- 有意義な3日間でした。関係者にこころからお礼をいいます。有り難うございました。
- 時間割の作成にあたり、“授業内容”と“講師”の配置を計画の段階で再検討する必要があります。
- 最後の一日しか参加できなかったのは、残念でした。参加者の方々が積極的に発言しそれにより1つのテーマがより深く、広く話し合われたので参加して楽しかった。しかし、一般的には異文化体験のない方向けの研修だと思いますので、それほど充実したディスカッションが期待できるかという不安はあるのではないのでしょうか。
- 3日間のカリキュラム、それぞれ大変意義があり、それぞれうまくスムーズにまとめるのは事務局も大変だったと思います。今後もこの訓練の継続を進めるために何らかの方策をこうじて下さい。特に研修コースとして成立するのかご検討ください。
- 研修項目に対して期間が短すぎた。インフォーマーをもっと有効に活用したほうが、良いと思います。
- 研修時間外に外国人と話す機会が持て、相手の考え方、ものの見方が分かりよかった。事前に資料をいただくと非常に効率的なセミナーになると思います。
- テーマが大きすぎるように思います。民間企業（中小企業）向けの研修ですぐ役立つようにするには、地域及びマネジメント及び生活等すぐに役立つようにしたらよいと思います。
- 貴重な経験をさせていただきありがとうございました。多文化という包括的な概念に興味がある人は良いかもしれないが、個々の目的意識によって

は焦点がぼけている。

プログラムの全体のスケジュール構成にはもっと工夫をしたほうが良いと思う。個々の先生方の講義には非常に興味を持てること、参考になることは多くあった。

- 対象者を明確にして欲しかった。私は英語がわからないので他の人に迷惑をかけたと思います。
- 前2日間と後1日で研修を行ってきたが、内容的には2日間で構成できるのではないだろうか。概念よりもアクションプランのウエイトを重くして欲しい。